

通り過ぎる

電車のように

安藤
紘平



Kohei ANDO

私が出会った表現者たちⅢ

2020

~~5/30~~

会期変更

~~8/02~~

SUN

beyond
2020

7/23-9/22

開館時間:9時~17時 ※入館は30分前まで 休館日:水曜日

会場:3階オープンギャラリー 観覧料:無料



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館



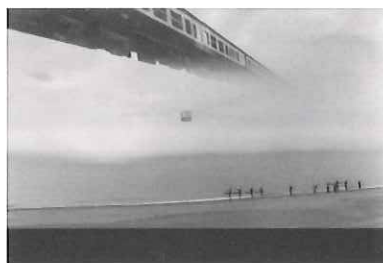
Oh! My Mother (1969)



The Sons (1973)

萩原朔美館長が出会った表現者たちを取り上げるシリーズの第3弾として、映像作家の安藤紘平さんを紹介します。安藤さんは寺山修司主宰による演劇実験室・天井棧敷の制作として活躍、`ネクタイの似合うただ一人の劇団員、として劇団初の海外公演の実現に奔走し、海外公演中に寺山修司と折半して中古の16mmカメラを購入したことがきっかけで映像の世界と出会います。

TBS社員として勤務する傍ら、ハイビジョンに先鞭をつけた制作者として世界的に活躍し、多くの映像作家や俳優等と交流を持ち、繊細で独創的な映像作品の制作で高い評価を受け、現在も映画祭の審査員を務めるなど活躍しています。制作者、技術者、そして表現者としての顔をもつ安藤さんの世界を、映像作品を中心に展示紹介します。



アインシュタインは黄昏の向こうからやってくる(1994)



La Valse (1976)



My Friends In My Addressbook (1974)



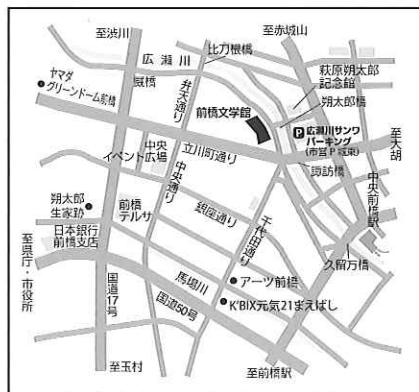
安藤紘平 (映画監督、早稲田大学名誉教授)

繊細で独創的な表現力で知られる映像作家。作風は一貫して“時の移り変わり”を描いた新鮮な作品が多い。天井棧敷に在籍、故寺山修司の勧めで、映画を撮り始める。

1970年オーバーハウゼン国際短編映画祭入選を皮切りに、トノンレバン国際映画祭グランプリなど数多く受賞。パリ、ニューヨーク、ロスアンゼルス、ロンドン、東京などの美術館に作品が収蔵される。他に、CM作品など多数。ハイビジョンを使っただけの作品制作では世界的な先駆者で、ハイビジョン撮影を35mmフィルムに変換、『アインシュタインは黄昏の向こうからやってくる』(1994)、『フェルメールの嘯き』(1998)など多数の作品で、ハワイ国際映画祭銀賞、スイス・モントルー国際映画祭アストロラビウム賞、ハイヴイジョンアワード・グランプリ、マルチメディア・グランプリ、などを受賞。

フランス国際映画祭の審査委員長など多数の映画祭の審査委員を歴任。早稲田大学名誉教授、日本映画監督協会国際委員、東京国際映画祭プログラミング委員。

※中止となりました



◎アクセス
電車: JR前橋駅から徒歩20分/上毛電鉄中央前橋駅から徒歩5分
自動車: 関越自動車道前橋ICから車で15分
※広瀬川サンワパーキング(市営パーク城東)のご利用に際しては、駐車券に割引処理をいたします。

トークイベント



堀内正美
(俳優)



安藤紘平
(映画監督)



萩原朔美
(前橋文学館館長)

日時: 7月19日(日) 14時~ 会場: 3階ホール

入場料 400円(展示観覧券分)

定員100人 6月13日(土)午前9時より受付開始(TEL.027-235-8011まで)

同時開催

「夢よ、氷の火ともなれー佐藤惣之助生誕130年記念展」

~~5月23日(土)~7月19日(日)~~ ← ※8月1日(土)~9月27日(日)

会場: 2階展示室 観覧料: 一般400円

(高校生以下無料、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名無料)

次回の前橋文学館展示のご案内

萩原葉子生誕100年記念展(仮称)

~~8月1日(土)~10月11日(日)~~

会場: 2階展示室

↑ ※10月10日(土)~1月11日(月・祝)

田村セツコ展ー私が出会った表現者たちIV(仮称)

~~8月8日(土)~10月18日(日)~~

会場: 3階オープンギャラリー

↑ ※10月3日(土)~12月27日(日)



萩原朔美 記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

〒371-0022群馬県前橋市千代田町三丁目12-10
TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512
https://www.maebashibungakukan.jp